



新人看護師基礎研修 「一年間の振り返りと今後の抱負」

3階東病棟 松元

4月から1年間3東病棟で、整形外科・脳神経内科の患者を受け持ち、急性期の看護を学ぶ事ができました。術前・術後の看護を通して、疼痛コントロールの大切さや不安なく手術を受けれるための精神的なケアの大切さを感じました。今後は、4東病棟へ移動となりますが、3東病棟で学んだこと、先輩看護師からのアドバイスを忘れずに日々学び頑張っていきたいと思います。



4階東病棟 堀之内

看護師として就職し、最初の頃は毎日が右も左も分からない状態で不安でしたが、先輩方の教えもあり、どうにか1年間続けることができました。4東病棟では、急性期の患者から終末期の患者まで様々な患者を受け持ち、それぞれの状態に合わせた看護を学ぶことができました。新年度より新たな病棟へ配属となりますが、日々学び続け、患者様へより看護を提供できるよう努力していきたいです。





看護協会研修

「実習指導者講習会」に参加して



4階東病棟 山村

病棟の実習指導者を担当して約7年経過し、今回、講習会の参加を勧められました。34日間の講習会のうち3/4の講義と1/4の演習という内容でした。

令和4年度より新カリキュラム改正（5次改正）となり医療・保健・福祉の場の時代背景とともに看護教育課程も変遷し、少子・超高齢社会、地域包括ケアシステムの構築に伴い、病院完結型から地域完結型に合わせ教育内容も変化していることを学ぶことができました。臨地実習はこれまで学生が学んできた既習知識を実践の場で統合していく授業でした。実習指導者をはじめ、指導にあたる全スタッフが学生のレディネスを把握し、実習の目的・目標を達成できるようサポートする必要があると感じました。発問や思考発話を通して学生の学びがより深まるよう関わり、スタッフ全員で学生を育てるという意思統一を図れるよう取り組みたいと思います。

4階西病棟 轟原

臨床指導者として2年ほど経ちます。私自身、学生とどのように関わり指導にあたればよいのか日々迷いがある中、研修に参加させていただくことができました。今回の研修では、教育方法や看護過程、実習目的など様々な講習と、実際に指導案作成を行いました。

2025年問題、少子超高齢化が進む中、地域包括ケアシステムが重要となり、1人1人の「考える力」が求められ、今年度から学生のカリキュラムも編成されます。臨地実習は、学生の既習知識と実践を結びつける大切な場です。発問を通し、考える力を引き出し実習目標・目的が果たせるよう、また、スタッフ皆で学生を迎える環境を整え、よりよい実習となるよう、これからも支援・指導にあたりたいと思います。



看護協会3日間研修

「新人看護職員卒後研修実施指導者研修会」を受講して

4階東病棟 森田

師長よりエルダーよろしくと声をかけて頂き、「新人さんに指導ができるようしっかりしなくては、育てていかななくては」と思っていました。そのような中でこの研修を受けました。教育についての一般的理解（教えてあげる、育て上げるという上から目線、上下関係）のかかわりが、その人自身の持っている力を発揮することを難しくさせてしまう、下の人として振舞わざるを得なくなる等の学びがありました。教えるということは相手から色々学ばせて頂くことでもあると思います。対等な目線で向き合い、新人さん、スタッフと共に自分自身も成長できる一年にできたらと思います。

4階西病棟 甲斐

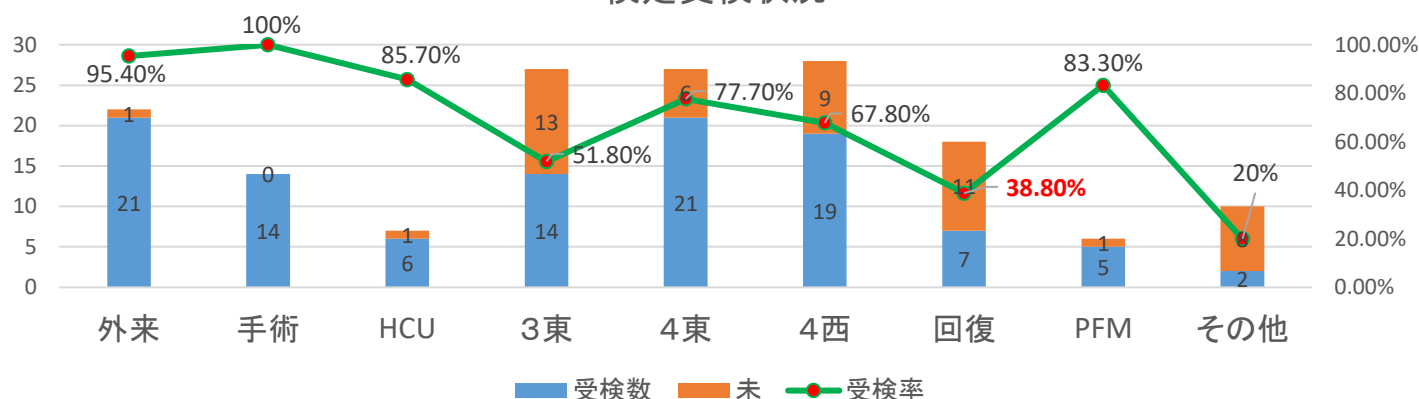
今回の研修で教育的な関りについて知識を深める事ができました。特に、印象深かったのが「看護」と「教育」はとても似ているということです。患者へ個別性のある看護を行うように、新人看護師へもその人に合った指導が必要であることを学びました。コロナ禍で実習時間も制限され、新人看護師の不安もより大きいと考えられます。ストレスやリアリティショックを少しでも軽減できるような関りが必要です。部署の経験もまだ浅く、指導に関して不安もありますが、自分自身も新人看護師と共に成長していきたいと思っています。

看護力検定結果

副看護部長 田口

2021年11月1日～11月30日に実施しました看護力検定は、今年で3年連続受検して頂いています。個々の学習の指標としても参考になりましたでしょうか。検定受検状況と結果について紹介します。

検定受検状況



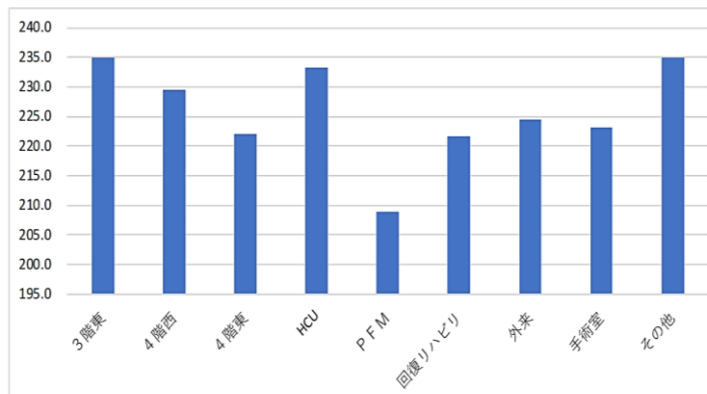
受検結果

全国平均点 218.8点/300点

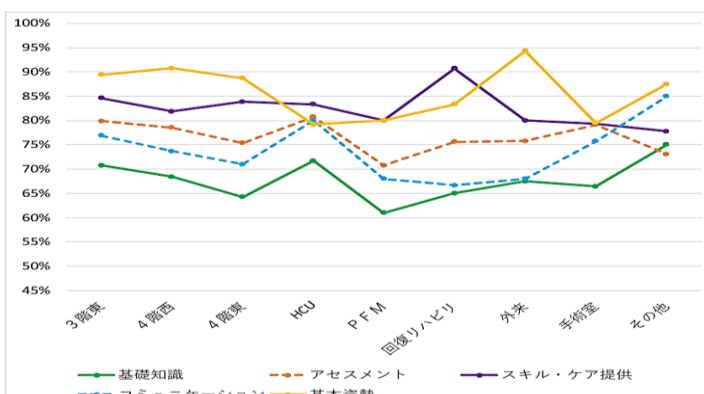
当院の平均点 225.9点/300点

全国平均を上回りました。

各部署の平均点



病棟別成績: 領域別正解率



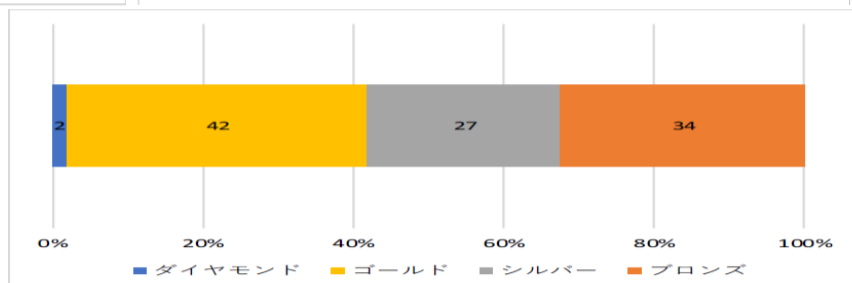
◆メダル獲得人数

ダイヤモンド	2
ゴールド	42
シルバー	27
ブロンズ	34

●凡例

ダイヤモンド：全国上位1%以内
 ゴールド：全国上位1～25%
 シルバー：全国上位25～60%
 ブロンズ：上位60%未満

※同点の受検者が多い場合、規定の割合と異なる可能性があります。



看護研究Web報告について

2021年度 看護研究 各部署の取り組みについて、皆さんに視聴して頂きたく、e-ラーニングでの配信を行います。研究原稿は各部署配布済ですので、ぜひ参照して頂き、今後の活動に活かして頂ければと思います。

Web配信期間：2022年4月1日～2022年6月30日を予定しています。

ミニナラティブ

3階東病棟 早瀬

入職2年目で病棟を異動して間もないころに、ギランバレー症候群により人工呼吸器管理となった患者を受け持ちました。四肢をほとんど動かさせないため体位交換時の身体の角度など少しずつ調整が必要でありナースコールは1時間に1回程度鳴らされていました。また、人工呼吸器管理であるため発声できずコミュニケーションは読唇や透明文字盤を使用して行っていましたが上手く使いこなせず、私は担当ではない時は訪室することが億劫になっていました。その億劫な感情が表情に出てしまい患者にも伝わってしまい後悔しました。このことを振り返り、まず患者の事を知る事から始めました。患者を知る事で、ナースコールが多いと感じていたのは他の患者と比べてであり、患者のナースコールが多いと思う事は根本的に違う事に気づきました。上手く伝えられない、迷惑をかけたくないと思いながら、ナースコールを押すのではなく、この人なら遠慮せず頼めるなど感じ押せることは良い事であり、関わりを深めるチャンスだと思います。患者を知った上で積極的に多く関わり、関わり方も工夫することで患者の笑顔が増え、信頼関係を築くことができました。今後の看護にも繋げていきたいです。



マイブーム

回復リハビリ病棟 増山

最近の私の中でのマイブームは、コーヒー豆を手動式のミルで挽いたコーヒーをドリップして飲むことです。豆を挽いた時や淹れた時の香りが部屋中に漂ってとても心地よく癒されます。今は、お店おすすめのモカブレンドコーヒー豆を購入していますが、コーヒー豆によって風味や酸味・コクなどが変わってくるそうなので色々なコーヒー豆を試して自分好みの美味しい一杯を見つけないしたいと思います。また、コーヒーの道具によっては、同じ豆でも風味に違いが出てくるそうなので自分に合った使いやすい道具も少しずつ揃えていきたいと思います。



編集後記

3月まだ寒い朝が続くの・・・と思っていましたが、急に暖くなり一瞬にして春がきたように感じます。春は別れと出会いの季節ですね。新年度の準備もよろしくお願い致します。(田口)

